



「うたごころ」(2012年版)  
(112分)  
榛葉 健 監督

東日本大震災で、親族5人と自宅を津波で失った女子高校生と家族、友達が、歌を通して、人生を取り戻していく姿を描いたシリーズドキュメントの秀作。公開中の2作品とも《阿倍野》で初上映し、全国海外へと拡散。今年中国での上映も成功させ、凱旋上映となる。



字幕あり

「シバ 縄文犬のゆめ」(99分)  
伊勢 真一 監督

「柴犬」の先祖は日本犬の中で最も古くから我が国に生息したと言われる。天然記念物柴犬保存会のリーダー照井光夫さんとその仲間たちが、縄文犬と呼ばれることもある「柴犬」と共に生きる姿を追った人と犬との愛情物語。まるでファンタジーのようなドキュメンタリー。

上映作品監督  
プロフィール

それぞれ作品上映後に  
監督や出演者による  
挨拶があります

ヒューマンドキュメンタリー映画祭  
《阿倍野》 総合プロデューサー



伊勢 真一 (監督)

答えよりも、問いを持ち続けたいと、幅広くヒューマンドキュメンタリーを手がける。映画祭の中心となり15年を、リードして来た。

ヒューマンドキュメンタリー映画祭  
《阿倍野》 ディレクター



榛葉 健 (監督)

1963年東京生まれ。87年毎日放送入社。震災、自然、社会派など、《いのち》を見つめる作品で日本賞など受賞多数。



金 聖雄 (監督)

1963年大阪生まれ。サラリーマン、商売、助監督などを経験後、フリーに。PR映像やテレビ番組、映画など、幅広く手がける。

ドキュメント・トーク

上映作品の監督や主人公が繰り広げるトークライブ。作品に秘めた思いやエピソードも交え、自然したトークが繰り広げられる、当映画祭の名物。社会をみつめる多様な視点や切り口の発見など、会場に新たな気づきや理解を創造します。



6月24日(土) 17:00～ 玉村 公二彦 (奈良教育大学教授)  
「発達のひかりは時代に充ちたか? 療育記録映画『夜明け前の子どもたち』から学ぶ」共著者  
西村 信子 (重度のてんかんと知的障害をもつ「奈緒ちゃん」のお母さん)  
伊勢 真一 監督

6月25日(日) 17:00～ 金 聖雄 監督 榛葉 健 監督 伊勢 真一 監督

これまでの「ヒューマンドキュメンタリーコンテスト最優秀賞受賞作品」の中から 3作品上映

プロ・アマを問わず、ドキュメンタリー文化を育むことを目的に開催を続けてきたヒューマンドキュメンタリーコンテスト。全国各地から毎年多数の作品が応募され、《阿倍野》がドキュメンタリストの発表の場として定着し、当コンテスト出身の映像作家も誕生しています。ご応募いただいたみなさまのさらなる活躍を期待しています。



6月24日(土) 10:00～

2005年 ヒューマンドキュメンタリーコンテスト 最優秀賞受賞



中井 佐和子 (制作者)

奈良市出身。2005年大阪芸術大学映像学科卒業。2006年ドキュメンタリージャパン入社。テレビ番組などのディレクター。

はくむ  
「羽包む」(20分)

この作品は私にとってとても身近な世界を写したものです。そしていま私は東京で就職してなべっや当時のクラスメイト達とも遠く離れています。みとると高校時代のみんなや自分に会えるような気がします。私の目にしか映っていなかった光景を、作品にすることで誰かが見て、何かを感じてくれる。そのことがとても新鮮でした。

2008年 ヒューマンドキュメンタリーコンテスト 最優秀賞受賞



湯本 雅典 (制作者)

1954年東京都生まれ。2006年まで小学校教員。自営業の傍ら自主制作。最新作「選挙が生まれる 長野と群馬の挑戦」。

「学校を辞めよう—51歳の僕の選択」(16分30秒)

僕は51歳で東京都の公立小学校の教員を自主、中途退職した。それは、本意ではなかった。僕にとって、毎日学校に行くことはあたりまえの「日常」だった。しかし、それが急にできなくなる事態が襲ってきたのである。この作品は、退職するまでの一年半を記録したビデオである。

2016年 ヒューマンドキュメンタリーコンテスト 最優秀賞受賞



松本 日菜子 (制作者)

1995年東京生まれ。上智大学文学部新聞学科3年生。現在はホームレスの支援や非行少年の更生などにも関心がある。

「軍属だった ひいおじいちゃん」(17分30秒)

松本日菜子は、都内の大学に通う20歳。祖母・飯田尚世の家には、軍属だった曾祖父・眞柳照平に関する資料が多く残されている。しかし、戦争経験もなく彼に会ったこともない松本にとっては、写真の中だけの遠い存在だった。ところが、殉職船員追悼式があると聞き、そこへ訪れたことを皮切りに彼の死を巡る旅がはじまった。松本は親戚や過去の資料を調べたりしながら、彼の姿や当時の状況を徐々に知ることになる。70年の時を超え、曾孫が亡き曾祖父に憧れ、たどり、寄り添いながら、「戦争」、「軍属」について考える。

# 「共に生きる」

「ヒューマンドキュメンタリー映画祭《阿倍野》」の原点とは何か…

一言で言えば、「共に生きる」という考えです

誰もが語る言い古された言葉に聞こえるかもしれませんが

私たちの社会の永遠のテーマであるように思います

笑い、泣き、怒り、語り、黙り…

参加した一人ひとりが主人公の映画祭

お互いのちがいを認め合いながら

“共に生きる”

その出会いの場…でありたいと



「奈緒ちゃん」(98分)  
伊勢 真一 監督

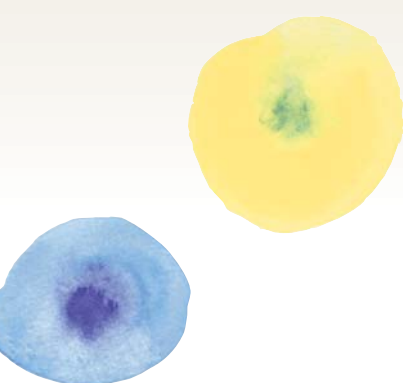
てんかんと知的障がいをもつ少女・奈緒ちゃんの、8歳から成人式までの12年間を追ったヒューマンドキュメンタリー。監督の姪っ子にあたる奈緒ちゃんと、その家族の日常を、ただ静かに見つめ続け、映画は“しあわせ”について問いかけます。



全国初上映

「やさしくなあと ~奈緒ちゃんと家族の35年~」(110分)  
伊勢 真一 監督

「長くは生きられない…」と言われた、障がいのある姪っ子「奈緒ちゃん」とその家族の日々を、伊勢監督が見つめ続けた35年の記録。「奈緒ちゃんが生まれたから、生きたから、たくさんのいのちが生きた。」奈緒ちゃんは44才、元気です! 『奈緒ちゃん』『びぐれっと』『ありがとう』に続く、家族の物語。



6/25(日) 上映スケジュール

10:00~	12:30~	15:00~	17:00~	18:00~
字幕あり		全国初上映	ドキュメント・トーク	
「シバ 縄文犬のゆめ」(99分) 伊勢 真一 監督	「花はんめ」(100分) 金 聖雄 監督	「やさしくなあと ~奈緒ちゃんと家族の35年~」(110分) 伊勢 真一 監督	金 聖雄 監督 榛葉 健 監督 伊勢 真一 監督	閉会式

6/24(土) 上映スケジュール

10:00~	12:00~	15:00~	17:00~	18:30~
開会式 コンテスト最優秀賞作品上映 「羽包む」(2005) 「学校を辞めよう」(2008) 「軍属だったひいおじいちゃん」(2016)	「うたごころ」(2012年版) (112分) 榛葉 健 監督	「夜明け前の子どもたち」(120分) 柳澤 寿男 監督	ドキュメント・トーク 玉村 公二彦 (奈良教育大学教授) 西村 信子 (「奈緒ちゃん」のお母さん) 伊勢 真一 監督	「奈緒ちゃん」(98分) 伊勢 真一 監督

入場料

1日券 2500円 (当日何度でも再入場ができます)  
学生、障がいのある方、60歳以上の方、及び前売り券は 2000円

2日通し券 3500円  
(2日間何度でも再入場ができます)